社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和06年03月29日

計画の名称	主要駅における交通結節機能向上		
計画の期間	令和０２年度　～　令和０４年度　(3年間)	重点配分対象の該当	○
交付対象	東京都,千代田区		
計画の目標	東京駅周辺地区は国内外等からの来客で賑わい首都東京の顔であるが、都市基盤の現状は、駅前広場や周辺道路において車両が輻輳し、歩行者空間も地上、地下ともに十分な整備水準とは言い難い状況にある。 また、地区の中心である東京駅は、東西方向に約300mにわたり線路が敷設され、交通を分断しているにもかかわらず、自由通路は北側のみに設置されているに過ぎず、歩行者が回遊できる基盤が十分に整備されていない。 御茶ノ水駅周辺地区は、教育機関や医療機関が数多く集まるとともに、歴史的施設や景観資源も有しており、文化的な「学園のまち」として発展し、駅前には商業、業務機能も集積している。 一方で地域へのアクセス拠点となる御茶ノ水駅は多くの利用者で混雑しており、エレベータ設置などのバリアフリーへの対応も遅れている。さらにまちの玄関となる駅前広場などの歩行者空間も十分に確保されていない状況にある。 そこで、主要各駅の交通結節機能の向上を図るため、東京駅において新たに南側に自由通路を整備し、御茶ノ水駅においてバリアフリー化と線路上の人工地盤設置による駅前広場の整備を行うものである。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	4,553	A	4,553	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初	R3末	事業完了時
1	東京駅丸の内南口付近から八重洲南口付近まで改札外を5分以内で行ける歩行者数の割合を現在の0%から100%にする。			
	東京駅丸の内南口付近から八重洲南口付近まで改札外を歩く場合、南部自由通路を経由する歩行者数の割合 南部自由通路を経由する歩行者数／丸の内南口付近から八重洲南口付近へ向かう歩行者数	0%	%	100%
2	御茶ノ水駅聖橋口のピーク時における歩行者密度を低減させ、ゆとりある駅前歩行空間を確保する。			
	御茶ノ水駅聖橋口駅前広場のピーク時における歩行者密度 1㎡あたり1分間の利用者数	4人	人	1人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

案件番号：　0000595591

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R02	R03	R04	R05	R06	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	東京都	間接	東日本旅客鉄道株式会社	－	－	東京駅地区都市交通システム整備事業	自由通路　延長290m	千代田区	■	■	■			3,773		－
	A13-002	都市交通	一般	千代田区	間接	東日本旅客鉄道株式会社	－	－	御茶ノ水駅周辺地区都市交通システム整備事業	駅前広場　約500㎡	千代田区	■	■	■			780		－
											小計						4,553		
											合計						4,553		

案件番号：　0000595591

事　後　評　価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 東京駅、御茶ノ水駅については、継続事業である。令和４年度末時点の評価を、各事業担当課において実施している。	事後評価の実施時期 令和５年３月 公表の方法 ホームページ
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	東京駅自由通路整備事業に関する指標１は長期間の事業であり、効果は自由通路整備後に発現する。 御茶ノ水駅駅前広場事業に関する指標２は長期間の事業であり、効果は自由通路整備後に発現する。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	
東京駅、御茶ノ水駅については、次期整備計画への継続事業であるため、全体事業完了後に、事業効果の発現状況・目標値の達成状況を検証し、最終的な事後評価を実施する。	

案件番号： 0000595591

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	南部自由通路を経由する歩行者数／丸の内南口付近から八重洲南口付近へ向かう歩行者数		
	最　終 目標値	100%	自由通路整備事業は事業中であるため、効果の発現は計れない。
	最　終 実績値	0%	
2	１㎡あたり１分間の利用者数		
	最　終 目標値	1人	御茶ノ水駅駅前広場事業は事業中であるため、効果の発現は計れない。
	最　終 実績値	4人	